

## ウォーキングクラブ 9月定例会・春日井三山の稜線を歩く



壁泉カナルの前で笑顔の記念撮影



弥勒山展望台は眺望抜群でした

例年通り9月の定例会は、夏休みで2か月振りのウォーキングになりました。

「秋」とは言え、未だ暑さが厳しく今回の参加者は通常より少ない、男性9名、女性5名の14名の参加となりました。

JR金山駅改札口に8:30に集合して、中津川行き8:40発に乗車し、JR高蔵寺に9:05到着。駅北口から植物園行き9:17発の名鉄バスに乗車し、終点の植物園に9:35に到着しました。

早速、例会担当者からコロナウイルス対策として、何時ものスタイルで全員の手にはエタノールを噴霧して消毒しました。それからスケジュールの説明と新人会員の紹介や、入会挨拶がありました。

先ずスタート前に「緑の相談所」に寄り、コース案内図をいただき、コースの難易度をお聞きし、親切に対応していただきました。そのうえトイレもお借りして謝謝。植物園の壁泉カナルからプロムナード・バラ園を通り、ログハウス休憩所を左に見て、人工の沢の橋を渡ります。

森の遊歩道から朽ちた丸太階段を上り、山頂に通ずる管理道路に合流しました。これから先は木立のトンネルの林道ウォーキングです。

春日井アルプスは尾根稜線の弥勒山・大谷山・高樹山の三山を総称し、東海自然歩道が縦断しています。

里山だけに登山コースは多数ありますが、今回のコースは整備が行き届いた管理道路で、緩やかな坂の大変歩き易い道です。

既に弥勒山(みろくやま)に登られて下山途中の方から「こんにちは！」とご挨拶が交わされました。

ここは地元の方の身近な散歩コースとして愛されており、歩き慣れた元気な高齢者の方も多数お見かけしました。

また、カラフルでお洒落な高齢の山ガールもお見受けしました。

その他、ダブルストックの高齢ハイカーの男性は、ゆっくりゆっくり一歩ずつ確実に登られている方にもお会いしました。

単調な道路の歩きに疲れた頃、ようやく中腹の弥勒休憩所に到着です。水分補給をしたところで、例会担当者が皆さんの健康状態と弥勒山に向かうかどうか伺います。

全員が果敢に登頂意欲があることを確認して、最後の山道の登りに挑戦です。

管理道路終点広場から谷筋のゴロゴロとした岩と滑り易い赤土の山道を辿ります。

15分ほどで東海自然歩道の尾根稜線に合流して緩やかな起伏を登り、11時過ぎに弥勒山に登頂しました。そこにはコンクリート製の立派な展望台がありました。

あいにくの曇り空でしたが、弥勒山の展望台からは名古屋駅前の高層ビル群をはじめ、伊吹山や、養老山脈の尾根稜線がシルエットで眺望できました。

また、眼下には森に囲まれた築水池や青少年自然の家赤い屋根が箱庭のように俯瞰することができました。

弥勒山の山頂で、早速ランチタイムになりました。



皆さん、三々五々と三密状態を避けながらお気に入りの方と場所取りをし、おにぎりや、菓子パン・お菓子などの食事風景がありました。小生は弥勒菩薩の石仏の祠の脇でアンパン・カロリーメイトと缶コーヒの細やかなランチタイムになりました。

食事中に来られた地元の高齢ハイカーの方から昭和30年代の春日井三山のお話が聞けました。それによれば「俺の若い頃は、東海自然歩道が通る前で、この尾根稜線は地元の者が使う杣道で滅多に人に合うことも無い藪漕ぎ道だったよ」

「弥勒山の石仏もその頃は気がつかなかったが、今はこの下の里の甘原町の方がお守りしているんだ」「高蔵寺ニュータウンが出来てから、以前に比べ随分開けたもんだね、今では健康のために毎日登るのが日課になっているんだ。85歳だが病気知らず、継続は力だね！」なるほどと、実感としてお聞きしました。

食事が終わったところで、皆さんの健康状態と高樹山登山の体力をお聞きして、意欲的な健脚者の男性6名・女性3名の有志は高樹山に向かいます。他の方はここで一時お別れして下山です。

尾根稜線の東海自然歩道は良く手入れされていますが、弥勒山から急坂の下りは丸太階段が土砂の流失で30cmほどの段差になり、慣れない方にはハードな下山になり愚痴やら御不満の声が聞こえました。

「こんなしんどい急な下りなら弥勒山だけで止めて、皆と一緒に下山すれば良かった。モウ～二度と来ない！」

片側には登り用にフィックスロープがセットされ、それなりに良く整備されており、幅も広くて遊歩道の雰囲気です。

急坂の下降を過ぎれば穏やかな稜線歩きです。尾根稜線は自然林が大きく成長して視界がない単調な森の中のウォーキングです。稜線の植栽は主にクヌギ・コナラの落葉樹で紅葉の頃は素晴らしい景観に目を奪われることでしょう。

大谷山に12時過ぎに登頂、未だ時間的には十分あり、高樹山に登ることは可能でしたが、女性陣から、高樹山は止めて下山の要望があり、それを受けてエスケープして植物園に下山する事になりました。

下山路は赤土の滑り易いトラバース道で、木の根が複雑に絡み合って歩き難い梯子状の道でしたが、慎重と緊張感を持ってゆっくり下山して無事に13時にログハウス休憩所に到着しました。

弥勒山で別れた皆さんとTEL連絡で合流することができました。

良く見れば、我々の居るログハウスの近くの木陰で皆さんお休みでした。

全員が無事に下山したことを確認して植物園13:56発高蔵寺行きバスに乗車、高蔵寺駅の南ロータリーから、ゆとりーとライン大曾根行き14:30発で帰路に着きました。今回の我が家の本願寺町までの総歩数は16,500歩、歩行距離は11.5km、歩行時間は3:00でした。

【撮影30期 北川健一・記31期 宮田岩男】



多くの茸が見られ、オレンジ色や、白色の綺麗な茸や、ハンバーグの様な大きな茸、あるいは馬糞のような茸がありました。